

平成24年度病虫害発生予察予報第8号(11月)

平成24年11月5日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量
抑制・促成キュウリ	うどんこ病 べと病 つる枯病 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	並 やや少 少 並～やや多 並 並
促成ナス	すすかび病 黒枯病 うどんこ病 アブラムシ類 ハスモンヨトウ ミナミキイロアザミウマ ヒラズハナアザミウマ タバココナジラミ ハダニ類 ホコリダニ類	<u>やや多</u> <u>やや多</u> <u>やや多</u> <u>やや多</u> 少 並 やや少 <u>やや多</u> <u>やや多</u> 並
促成ピーマン・シシトウ	うどんこ病 黒枯病 アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ ヒラズハナアザミウマ タバココナジラミ ハダニ類 ホコリダニ類	並 並 <u>やや多</u> <u>やや多</u> 並 <u>やや多</u> 並 並
促成トマト	トマト黄化葉巻病(TYLCV) うどんこ病 葉かび病 すすかび病 タバココナジラミ	<u>やや多</u> 少 少 並 並

I 気象予報(高松地方気象台 平成24年11月2日発表)

＜予想される向こう1か月の天候＞ 11月3日から12月2日

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1ヶ月の平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または低い確率ともに40%です。2週目は、平年並または低い確率ともに40%です。

＜確率＞

(単位:%)

期 間	要 素	予報対象地 域	低 い (少ない)	平 年 並	高 い (多い)
1ヶ月	気 温	四国地方	40	40	20
	降 水 量		30	30	40
	日照時間		30	40	30
1週目	気 温	四国地方	40	40	20
2週目			40	40	20
3～4週目			40	40	20

＜予報の対象期間＞

1ヶ月 :11月 3日(土)～12月 2日(日)

1週目 :11月 3日(土)～11月 9日(金)

2週目 :11月10日(土)～11月16日(金)

3～4週目:11月16日(土)～11月30日(金)

II 病虫害発生予想

1. 抑制・促成キュウリの病虫害

1) うどんこ病

予 想 発生時期:並 / 発生量:並

根 拠

(1) 現在、県全域で平年に比べて少発生である。

(2) 向こう1か月の気象予報では、晴れの日が多いことが予想されており、乾燥状態が続くと発生量が増えることが予想され、平年並の発生量になると思われる。

対 策

(1) 蔓延後は防除が困難なので、初期防除を心がける。

(2) 発病の多い下葉や葉裏へは、かけ残しのないよう丁寧に薬剤を散布する。

2) 黄化えそ病

予 想 発生時期:やや早い / 発生量:並～やや多

根 拠

(1) 例年、摘芯処理の前後から発病株の増加が見られるが、10月下旬の巡回調査では本病害は

平年並の発生で、媒介虫であるミナミキイロアザミウマも平年並であることから、平年並～やや多発生で推移すると考えられる。

- (2) 向こう1か月の気象予報では気温は平年並またはやや低めで推移することが見込まれるが、ハウスを開放する時間もまだ長い時期であるため、媒介虫の飛び込み及び増殖が継続すると考えられる。このことから、現状より増加傾向で推移すると思われる。

対 策

- (1) 発病株は感染源になることから、見つけ次第早めに除去する。
(2) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除については、当該害虫の項を参照。

3) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生時期:並 / 発生量:並
根 拠

- (1) 現在発生は県全域で平年並の発生である。
(2) 向こう1か月の気象予報では気温は平年並またはやや低めで推移すると予想されているが、日中のハウス内温度は高温になる時期であり、野外からの飛び込みや侵入後の増加が懸念される。防除対策が徹底されているものの薬剤感受性の低下も認められ、やや増加傾向で推移すると思われる。

対 策

- (1) 本虫は成長点部等見つけにくい薬剤もかかりにくい場所を好み寄生するので、油断するとすぐに密度が急増する。早期発見及び防除の徹底や丁寧な薬剤散布を心がけるとともに、感受性低下を防ぐために同一薬剤及び同系統の薬剤の連用は避ける。
(2) 防虫ネットや粘着資材などの物理的防除も併用する。

4) タバココナジラミ

予 想 発生時期:並 / 発生量:並
根 拠

- (1) 現在、県西部で平年に比べて発生がやや多いが、その他の地域では少発生である。
(2) 向こう1か月の気象予報から、野外からの飛び込みや侵入後の増加が懸念される。有効な薬剤が少なく増殖も早いことから、やや増加傾向で推移すると思われる。

対 策

- (1) 本虫は密度が急増しやすいので、早期発見及び防除の徹底や丁寧な散布を心がけるとともに、感受性低下を防ぐために同一薬剤及び同系統の薬剤の連用は避ける。
(2) 防虫ネットや粘着資材などの物理的防除も併用する。
(3) 本虫が媒介する退緑黄化病がメロンで確認されたことから、これまで以上に発生に留意し、異常な株が発見された場合は早めに除去し適正に処分する。

2. 促成ナスの病害虫

1) 黒枯病

予 想 発生時期:やや早い / 発生量:やや多
根 拠

- (1) 現在、県東部で発生が平年より多いものの、向こう1か月の気象予報では気温は平年並～やや低めで推移し、晴天日が多いと見込まれており、本病害の発生を助長する要素は少ない。しかし、現在の発生状況から天候次第では、病徴の進展が心配される。

対 策

- (1) 蔓延すると防除が困難になるので初期から防除を行う。その場合は耐性菌の発現を防ぐため同じ薬剤の連用は避ける。

(2) 急激な温湿度及び肥培管理は草勢低下を招き、病勢を進展させるので避ける。

2) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生時期:並 / 発生量:並
根 拠

- (1) 現在、県全域で発生面積は平年並で、密度は県中央部でやや高いほ場が見られた。
- (2) 向こう1か月の気象予報からはやや増加傾向で推移すると考えられるが、天敵導入ハウスでは定着も順調であり、薬剤感受性低下が認められる地域があることを考慮しても急増はなく、ほぼ現状かやや増加傾向で推移すると思われる。

対 策

- (1) 高密度になると防除が困難になるので初期から防除を行う。その場合は感受性低下を防ぐため同じ薬剤の連用はさけ、感受性低下の恐れのない気門封鎖型の薬剤なども使用する。
- (2) 防虫ネットや粘着資材など物理的な防除対策も併用する。
- (3) 天敵導入の場合は、特に天敵の増殖初期にはできるだけ薬剤散布を控えるが、天敵との密度推移に注意しながら、本虫の密度が高い場合には天敵に影響のない薬剤で防除する。

3) タバココナジラミ

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや多
根 拠

- (1) 現在、県東部と西部で平年より発生が多く、寄生密度は県全域で平年より高い。
- (2) 向こう1か月の気象予報から気温はやや低めで推移すると予想されるが、日中のハウス内は高温になる時期であり、天敵の定着を考慮してもやや多発生で推移すると思われる。

対 策

- (1) 天敵導入ほ場では薬剤の選定に留意し、微生物製剤のように天敵に影響の少ない薬剤や粘着資材など物理的な防除方法も活用しながら、高密度にならないようにコントロールする。

3. 促成ピーマンの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生時期:並 / 発生量:並
根 拠

- (1) 現在、県全域で平年並の発生である。
- (2) 向こう1か月の気象予報では減少する要素はないが、効果的な防除方法もあることから病勢の大きな進展はないと思われる。

対 策

- (1) 本病が蔓延すると防除が困難になるので発生初期の防除に努め、薬剤散布の際は下葉や葉裏へのかけ残しのないよう丁寧に行う。

2) 黒枯病

予 想 発生時期:並 / 発生量:並
根 拠

- (1) 現在、発生は県全域で少～平年並で、問題になるような発生は見られていない。
- (2) 向こう1か月の気象予報からは発生を助長する要因は少ないが、天敵利用栽培の増加で、予防散布も十分でない状況も考えられ、天候次第では発生が心配される。

対 策

- (1) 本病が蔓延すると防除が困難になるので予防防除に努め、薬剤散布の際はできるだけ少量の

葉液で下葉や葉裏へのかけ残しのないよう丁寧に行う。

3) アブラムシ類

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや多
根 拠

- (1) 現在、県中央部で発生面積、密度が高い水準である。ワタアブラムシが主体である。
- (2) 向こう1か月の気象予報や現在の発生状況から今後も多い状態で推移すると思われる。

対 策

- (1) 油断すると急激に増加し防除が困難になるので、初期の低密度時から防除を行う。なお天敵を導入している場合はそれらに影響の少ない薬剤を選定する。
- (2) 防虫ネットなど物理的な防除対策も併用する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや多
根 拠

- (1) 現在、県東部～中央部で発生面積がやや多く、東部では密度もやや高くなっている。
- (2) 向こう1か月の気象予報から増加傾向が予想されるが、天敵導入ハウスでは天敵も増加する時期になることから、現状から大きく増加することはないと思われる。

対 策

- (1) 薬剤防除の場合は、初期防除を徹底するとともに薬剤及び剤の系統を変えて散布する。また、天敵導入ハウスでは選択性の薬剤や微生物製剤など天敵に影響の少ない薬剤で対応するとともに、粘着資材など物理的な防除も活用する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや多
根 拠

- (1) 現在、県東部から中央部にかけて発生面積が多く、東部では密度も高くなっている。
- (2) 向こう1か月の気象予報から増加傾向が予想される。天敵も増加する時期でもあるが、しばらくは多い状態で推移すると思われる。

対 策

- (1) 天敵導入ハウスでは、天敵に影響に少ない薬剤や粘着資材など物理的な防除も利用する。
- (2) 高密度にならないよう発生初期から防除を行うとともに、感受性低下を生じないように同一薬剤の連用は避け、気門封鎖型の薬剤など感受性低下の恐れのない薬剤も使用する。

4. 促成トマトの病害虫

1) トマト黄化葉巻病 (TYLCV)、タバココナジラミ

予 想 発生時期:並 / 発生量:並
根 拠

- (1) 現在、黄化葉巻病の発生はやや多発生であるものの、媒介虫であるタバココナジラミは少発生である。
- (2) 向こう1か月の気象予報から媒介虫はやや増加すると懸念されるが、現在の発生状況から極端な発生はないと思われる。

対 策

- (1) 発病株は感染源になることから、見つけ次第除去し適正に処理する。
- (2) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。薬剤散布に当たっては感受性低下を生じないように同一薬剤の連用は避け、感受性低下の恐れのない気門封鎖型の薬剤も使用する。

- (3) 防虫ネットや粘着資材の設置など物理的な方法も活用し、ダバココナジラミの侵入及び密度の低減に努める。

県民の皆様に提供する農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

1. **病虫害防除所ホームページ**（こうち農業ネット）：<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>
 - ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
 - ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
 - ③病虫害発生予察技術資料
 - ④新しく問題となっている病虫害 etc.
2. **こうち農業ネットサービス**※※当方で提供する情報の閲覧は無料です（通信料は別途必要となります）。
 - ・携帯電話を使った病虫害関連情報（どなたでも利用可能です）
 - <http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/i/info/list.php?DID=319> (Iモード)
 - トップメニュー→地域情報→タウンガイド・行政→高知県庁メニュー→農業情報：(ezweb)
 - 四国メニュー→タウン情報・行政→高知県庁メニュー→農業情報：(ヤフー)
 - ①病虫害発生予察情報（概要）